日田市埋蔵文化財調査報告書第 144 集

鎌手遺跡

鎌手遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第144集

２０２４年　日田市教育委員会

２０２４年

日田市教育委員会

序　　文

本書は、日田市教育委員会が令和３・４年度に農協支所移転事業に伴い実施した鎌手遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

調査では、縄文時代後期後半頃の土器や石器が大量に確認され、調査地周辺に集落が存在することが分かりました。また、大量の遺物の中からは、市内で４例目となる土偶も発見されています。

こうした調査成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や地域の歴史を学習する上での教材、学術研究などにご活用頂ければ幸いです。

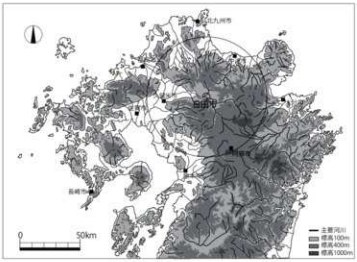
最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係者の方々、作業に従事いただきました皆様方に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

令和　６年　３月

日田市教育委員会
教育長　江嶋　久典

例　　言

1. 本書は、令和３年度から令和４年度にかけて発掘調査を実施した鎌手遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、農協支所移転事業に伴い、大分大山町農業協同組合の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査現場での遺構実測は、有限会社九州文化財リサーチに委託し、現場での写真撮影は担当者が行った。また、実測に必要な基準点・水準点の設置については、株式会社東豊開発コンサルタントの協力を得た。
4. 本書に掲載した遺構製図、遺物実測・製図及び遺物写真は、有限会社九州文化財リサーチに委託したものを使用した。この他、遺構写真と遺物写真の一部は担当者が撮影したものを使用した。
5. 挿図中の方位は全て方眼北を示している。
6. 写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。
7. 本書に掲載している図面類、出土遺物や関係写真については、日田市埋蔵文化財センターに保管している。
8. 本書の執筆・編集は、上原が行った。



本文目次

Ⅰ　調査に至る経緯と組織 …… **1**
（1）調査の経過 …… 1
（2）調査の組織 …… 2
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… **2**
Ⅲ　調査の内容 …… **3**
（1）調査の概要 …… 3
（2）遺構と遺物 …… 5
Ⅳ　総括 …… **11**

挿図目次

第１図　予備調査１トレンチ全体図（1/200） …… 1
第２図　調査地周辺位置図　（1/1,500） …… 2
第３図　周辺遺跡分布図　（1/40,000） …… 2
第４図　調査地全体図　（1/125） …… 3
第５図　基本層序（1/80） …… 4
第６図　調査地土層断面図（1/80） …… 4
第７図　出土遺物平面位置図　（1/80） …… 6
第８図　出土遺物土層位置図　（1/60） …… 7
第９図　出土遺物実測図１　（1/4） …… 8
第10図　出土遺物実測図２　（1/4） …… 9
第11図　出土遺物実測図３　（41～48：1/4、49～52・55：1/2、53・54：2/3） …… 10

写真図版目次

写真図版１
発掘状況（東から）
発掘状況（西から）
発掘状況（南から）
発掘状況（北から）
グリッドC - 7 遺物出土状況（西から）
グリッドD - 3 遺物出土状況（北から）
グリッドD - 4 遺物出土状況（北から）
グリッドD - 5 遺物出土状況（北から）
写真図版２
グリッドD - 7 遺物出土状況（東から）
グリッドF - 3 遺物出土状況（西から）
グリッドF - 5 遺物出土状況（南から）
南北トレンチ２西壁土層断面（東から）
東西トレンチ西側北壁土層断面１（南から）
東西トレンチ西側北壁土層断面２（南から）
東西トレンチ東側土層断面１（南東から）
南北トレンチ１西壁土層断面１（東から）
写真図版３
南北トレンチ１西壁土層断面２（東から）
南北トレンチ１西壁土層断面３（東から）
南北トレンチ１西壁土層断面（北から）
南北トレンチ１西壁土層断面（南から）
出土遺物
写真図版４
出土遺物

本文写真目次

写真１　予備調査出土遺物（一部）
写真２　重機作業風景
写真３　作業風景
写真４　土層断面（予備調査時）　4

表目次

第１表　出土遺物観察表（土器）１　11
第２表　出土遺物観察表（土器）２　12
第３表　出土遺物観察表（石器・土製品）　12

写真１　予備調査出土遺物（一部）

写真２　重機作業風景

写真３　作業風景

Ⅰ　調査に至る経緯と組織

（1）調査の経過

令和3年3月12日付で大分大山町農業協同組合(以下、協同組合)より、日田市教育委員会教育長 三笘眞治郎(以下、教育委員会）あてに、大山町西大山字ヤシキ付5879-1、5880-1、字ソノ田5883-1、5884-1、5886-13、5886-16について、農協支所移転事業に伴い文化財保護法第93条の届出が提出された。

事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である鎌手遺跡に該当し、現地を確認した結果、その取扱いについては、協議が必要な旨を回答した。4月7日に予備調査依頼が提出され、これを受けて教育委員会では、4月20日から23日にかけて重機と作業員による予備調査を実施した。

予備調査の結果、縄文土器などが出土する遺物包含層が確認されたものの、明確な遺構などが確認されず、遺物の出土量も多くないことから本調査までは必要ないと判断し、工事にあたっては問題なしとの回答を行った。

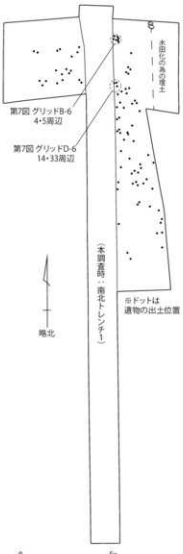
その後、令和3年9月9日付で協同組合より、教育委員会あてに、当初の開発計画を変更して、北側に範囲を広げる工事の文化財保護法第93条の届出が提出された。事業予定地は、上記地番に大山町西大山字ソノ田5886-1、5884-3を加えたものであることから、その取扱いについては協議が必要な旨を回答した。10月19日に協同組合より予備調査依頼が提出され、11月2日から6日にかけて重機と作業員による予備調査を実施した。

予備調査の結果、2本のトレンチのうち、2トレンチの遺物出土量は4月の予備調査と同等であったものの、1トレンチからは、遺物が集中する箇所（第1図）がみられ、縄文土器や石鏃（写真1）の出土量はコンテナケース約1箱分にも及んだ。なお、これらの出土遺物は全点取り上げを行っていないため、本調査時に取り上げを行った（第1図）。また、1トレンチと本調査時の出土遺物で接合関係を確認したものの、接合関係が確認されなかったことなどから、一部を除いて（写真1、第11図49）掲載を見送った。

こうした調査の結果から、対象範囲の発掘調査が必要と判断し、協同組合と協議を行ったが、工法の変更などによる遺跡の保護は困難と判断し、遺跡の確認された範囲のうち、遺物の出土量が多い1トレンチを中心とした発掘調査の実施に向けて協同組合と協議を重ねた。令和4年2月14日には、発掘調査委託契約を取り交わし、同年2月21日から4月18日までの間、発掘調査を実施した。なお、現場での発掘作業の経過は以下のとおりである。

令和3年2月21日　重機による表土剥ぎ開始
2月22日　作業員による遺構検出開始
3月　2日　作業員による掘下げ開始
3月25日　実測開始
4月12日　調査区全体の写真撮影実施
4月14日　機材撤収
4月18日　調査終了

また、出土遺物の整理作業は、令和4年8月18日から11月29日まで行った。その後、令和5年10月7日から12月15日まで遺物実測等の委託業務を実施。並行して、担当者や整理作業員による遺物製図、遺物写真撮影や報告書の執筆・編集作業を実施し、印刷を行った。



第1図　予備調査1トレンチ
全体図（1/200）

（2）調査の組織

令和３年度～５年度

調査主体　日田市教育委員会

調査責任者　三笘眞治郎（日田市教育委員会教育長 ～令和５年８月）
江嶋久典（日田市教育委員会教育長 令和５年９月～）

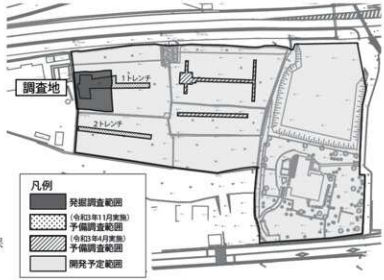
調査統括　吉田博嗣（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務　渡邉隆行（日田市教育庁文化財保護課主幹埋蔵文化財係総括）
行時桂子（同主幹：予備調査担当）、井上純（同主査 ～令和５年３月）、田中敏子（会計年度任用職員 ～令和５年３月）

調査員　上原翔平（日田市教育庁文化財保護課主査）

発掘作業員　秋吉新六、加藤祐一（令和４年度）、合原建國美、坂本隆、矢野美智子、和田征二

整理作業員　佐藤忍、吉田里美



第２図　調査地周辺位置図　(1/1,500)

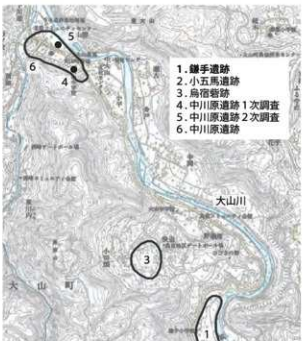
Ⅱ　遺跡の立地と環境

鎌手遺跡は、日田盆地の南に広がる山間部、大山川西岸の河岸段丘上の標高約 185 mに位置する。大山川沿いは谷幅が狭く、切り立った崖が多く見られるなかで、調査地周辺は比較的に開けた場所に所在し、上野川と大山川の合流地左岸にあたる。

大山川は筑後川の上流部にあたり、津江山地や阿蘇外輪山を源として日田市上津江町・中津江村・大山町を通り、日田盆地東部で玖珠川と合流して三隈川（筑後川）となる。この大山川の支流上野川の源流域（前津江町曾家）には黒曜石の露頭が見られ、上野川の川原にも黒曜石の転石が散在している。この黒曜石は粒子を多く含み、腰岳産や姫島産のものよりも質的に劣るが、一部石器の材料として使用されていたとみられる。

鎌手遺跡周辺での本格的な発掘調査は、鎌手小学校跡地で行った防火水槽設置工事に伴う調査があり、中世時期と考えられるピットが確認されている。また、周辺には大山川右岸に近世の包蔵地である小五馬遺跡 (2) が、鎌手遺跡の北西側、丘陵頂に中世の城跡である烏宿砦跡 (3) が周知されている。

そのほか、大山町内で行われた本格的な発掘調査は、昭和 49 年に工場増築基礎工事に伴い実施された塚ノ本遺跡（現：中川原遺跡）の調査がある。この調査では、溝状遺構が確認され、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大規模な集落の存在が想定されている。また、昭和 50 年には、旧大山小学校の運動場内排水工事に伴い実施された大山小学校校庭遺跡（現：中川原遺跡）の調査では、箱式石棺墓が２基検出されている。それ以外には、旧大山小学校グラウンド改修工事に伴い実施された中川原遺跡１



第３図　周辺遺跡分布図　(1/40,000)

次調査 (4) と圃場整備に伴い実施された中川原遺跡２次調査 (5) の２カ所がある。

１次調査では、昭和 50 年の調査を追認するように弥生時代後期の住居や墓が発見されたほか、中世の墓が発見され、そこから日田市内で２例目となる念珠が出土している。２次調査では、縄文時代や弥生・古代の竪穴住居跡などが確認された。縄文時代後期中頃の住居内に敷設された石組炉からは、カラスザンショウのほか、ブドウ・マメやイネ科の種子が発見されたほか、漁撈具である石錘が発見され、当時の食生活や生業を考える上で貴重な成果を得られている。

【参考文献】

大山町誌編纂員会 『大山町誌』 大山町　1995

行時 桂子 『中川原遺跡』 日田市教育委員会　2006

今田 秀樹、若杉 竜太、佐々木 由香 『中川原遺跡 -2 次調査の概要 -』 日田市教育委員会　2010

渡邉隆行 編 『平成 25 年度（2013 年度）日田市埋蔵文化財年報』 日田市教育委員会　2014

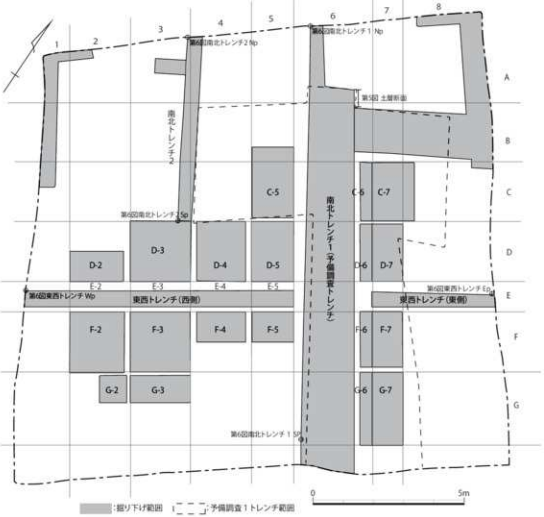
渡邉隆行 編 『令和４年度（2023 年度）日田市埋蔵文化財年報』 日田市教育委員会　2024

Ⅲ　調査の内容

（1）調査の概要

調査対象地は、事業予定範囲（6,515.25㎡）のうち、確認調査の成果をもとに、遺物が集中する範囲を中心に設定した（調査面積は 224㎡）。

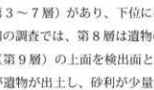
調査は、重機で現地表面から約 90㎝下の遺物包含層である暗黄褐色砂質土層（第５図第９層）の上面まで掘り下げ、その後人力による遺構検出作業を実施した。遺物包含層を調査地全体で確認したことから、範囲を把握するため、調査地に予備調査で設定した南北トレンチ１とそれに対して垂直に設定した東西トレンチを基準とし



第４図　調査地全体図　(1/125)

て２m×２mの東西方向１～８、南北方向Ａ～Ｇのグリッド番号を設定し、出土遺物の多い箇所を中心に第９層の掘り下げを行った（第４図）。しかし、南北トレンチ１周辺の東西方向６～８番、東西トレンチ周辺の南北方向Ｅ・Ｆ・Ｇについては、トレンチの幅に合わせて設定したため、間隔が不定形となっている。なお、グリッド内における掘り下げ範囲は、遺構検出及び一部掘り下げを行った際に遺物の出土が集中している箇所を対象とした。そのため、F-4・5、G-2・3、D-2などはグリッドをさらに分割して設定している。

基本層序（第５図：層序は第６図と共通）については、調査時の記録作成を失念したため、予備調査時の記録を流用した。地表から約55cmの深さで耕作土（第１層）、水田基盤土（第２層）、旧耕作土とそれに伴う水田基盤土（第３～７層）があり、下位には遺物が少量出土する約35cmの厚さの黄褐色砂質土層（第８層）が堆積する。今回の調査では、第８層は遺物の量が少ないことから調査対象とはせず、その下位約35cm厚の暗黄褐色砂質土層（第９層）の上面を検出面とした。第９層は遺物が多量に出土する遺物包含層で、この下層には、少量であるが遺物が出土し、砂利が少量混じる暗黄褐色砂質土層（第10層）が約25cmの厚さで堆積する。この



1. 耕作土
2. 水田基盤土
3. 灰褐色粘質土
4. 水田基盤土
5. 灰褐色粘質土
6. 水田基盤土
7. 灰褐色粘質土
8. 黄褐色砂質土 遺物を少し含む
9. 暗黄褐色砂質土 遺物を多く含む
10. 暗黄褐色砂質土 礫が混じる 遺物を少し含む
11. 黄褐色砂質土 砂礫層

第５図　基本層序（1/80）

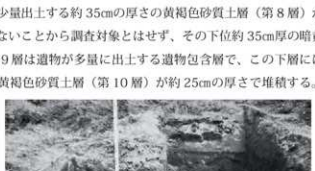
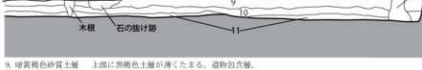


写真４　土層断面（予備調査時）

9. 暗黄褐色砂質土層　上部に黒褐色土層が薄くたまる。遺物包含層。
10. 暗黄褐色砂質土層　砂利が少量混じる。しまりなし。
11. 黄褐色砂質土層　砂利が混じる。

8. 黄褐色砂質土層
9. 暗黄褐色砂質土層　遺物の出土量が多い、遺物包含層。
10. 暗黄褐色砂質土層　9層よりも暗い、砂利が混じる。
11. 黄褐色砂質土層　砂利が10層よりも多くなる。
12. 砂利層　川砂か



8. 黄褐色砂質土層
9. 暗黄褐色砂質土層　遺物包含層
10. 暗黄褐色砂質土層　砂利が混じる　9層よりも暗い
11. 黄褐色砂質土層　砂利が多く混じる。

第６図　調査地土層断面図（1/80）

下層（第 11 層）は、砂利が大量に混じる黄褐色砂質土層（第 11 層）で遺物の出土はほとんどみられなかった。

そのため調査は、遺物が多量に出土する第 9 層と少量出土する第 10 層を調査対象として掘り下げを行い、それより下位の第 11・12 層については、南北トレンチ 1 ・東西トレンチでのみ掘り下げを行っている。

なお、文章中に記載している時期区分は、水之江・前迫氏（2010）の中九州の編年案を参考にしている。また、それぞれの型式については、北久根式・辛川式は水之江・前迫氏（2010）、太郎迫・三万田式は宇土・大坪氏（2011）、鳥居原式・御領式は古森氏（1994）の型式分類を参考に行っている。

【参考文献】

古森政次 『ワクド石遺跡』熊本県文化財調査報告第 144 集　熊本県教育委員会　1994

水之江和同・前迫亮一 「九州」『西日本の縄文土器 後期』 真陽社　2010

宇土靖之・大坪芳典 『小原下遺跡』鳥原市文化財調査報告書第 12 集　鳥原市教育委員会　2011

（2）遺構と遺物

今回の調査では、明確な遺構は確認されなかったものの、遺物包含層（第 9・10 層）が確認された。この遺物包含層は、約 20 ～ 35㎝の厚さで調査地全体に広がっている。遺物は第 8 図①から、グリッド D・E・F の 9 層を中心に出土し、②ではグリッド G の 9 層を中心に集中して出土している。③・④からもグリッド 3・4 、6・7 を中心に第 9 層で遺物が集中して出土している。第 10 層にも少量の遺物の出土がみられるが、遺物廃棄の中心期間は、第 9 層の堆積時とみて問題ないと考えられよう。さらに出土遺物の時期については、2 ～ 3 型式の時期幅がみられる。しかし、整理段階でそれぞれの取り上げ位置について十分な検討が出来ていないことから、層位ごとの明確な時期区分は判然としない。

また、第 9 層は、第 6 図東西トレンチで西から東に向かって約 20㎝、南北トレンチ 1 で南から北に向かって約 33㎝傾斜している。このことから、旧地形は調査地から川側、大山川上流から下流側に向かって緩やかに傾斜している。

なお、遺物包含層のうち、集中出土する箇所（第 7 図 F-3、G-6 周辺）で重点的に検出を行ったものの、遺構を確認することはできなかった。また、時期については、縄文時代後期後半頃に収まるものと想定される。

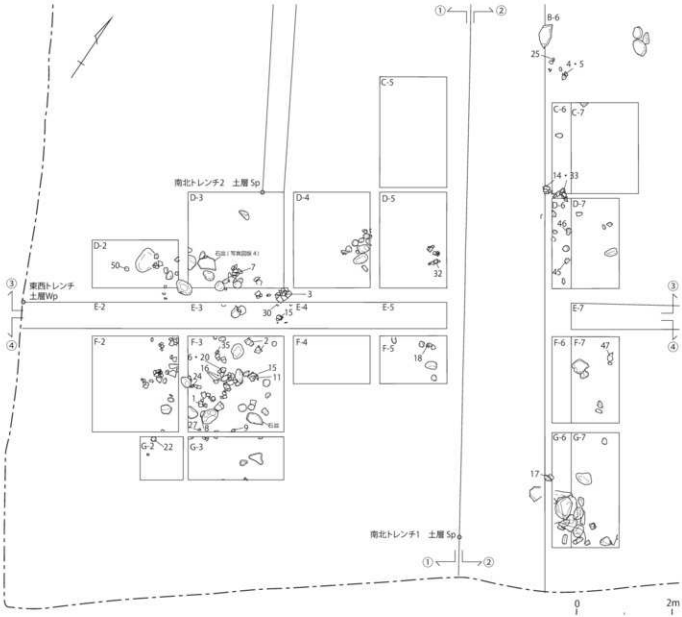
出土遺物の大半は、縄文土器を主体としているが、一部に石器も出土している。この遺物包含層からは、日田市内で 4 例目となる土偶が 1 点出土した。

出土遺物（第 9 図～第 11 図、写真図版 3 ～ 4）

今回の調査では、紙面の都合上等からすべて掲載することが出来ないが、縄文土器については、破片数で約 2,900 点（コンテナケース約 30 箱分）が出土している。最も多い器種は鉢で次いで深鉢、浅鉢である。以下、掲載遺物について説明する。

1 ～ 13 は、深鉢である。1 ～ 5 は粗製または半精製で文様は無く、胴部から口縁部に向かって緩やかに外反する。6 も半精製で、口縁部が強く外反する。7・8 は、口縁部が短く内傾し、二重の凹線が巡る。8 については、この凹線内に細線文が巡る。9 ～ 11 は口縁部のみ残存しており、10 については口縁内部に沈線文が巡る。12 は口縁に山形文が巡る。器形や文様の特徴から、7・8・10 は三万田式、12 は北久根式、13 は辛川式とみられる。

14 ～ 44 は、鉢である。14 ～ 17 は、精製から半精製で文様はない。14 は頸部に凹線が巡る。15 から 17 は口縁部に凹線が巡る。凹線文の特徴から 14、16、17 は鳥井原式とみられる。18 ～ 22 は底部である。19 は粗製で被熱による赤化がみられる。20・21 は上げ底である。22 は底部付近に凹線が 2 条巡る。23 ～ 44 は口縁部のみ残存している。23 は口縁部が短く内傾しており、外面には 2 条の沈線が巡る。24・25 は口縁部がほぼ垂直に短く立ち上がる。外面には 2 条の凹線が巡る。26 は波状口縁である。27 は口縁部が若干内傾し、口縁外面に 2 条の沈線が巡る。28 は短い口縁外面に 2 条の凹線が巡る。30 は口縁がやや外側に立ち上がり外面に凹線が巡る。31 は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。外面には、浅い凹線が 2 条めぐる。32 は波状口縁で、頸部には凹線と刺突文がめぐる。33 は頸部付近に凹線文が巡る。凹線文内には斜め方向の細線文が施されている。34・35 は頸部付近に補修穴とみられる穿孔が 2 つ施されている。36 は、口縁部外面に 3 条の凹線文が巡り、



第７図　出土遺物平面位置図　(1/80)

凹線内には細線文が施されている。37 ～ 40 は口縁部外面に凹線が巡る。また､39 は内面に黒斑が残る。41 は、口縁部の内外面に沈線と細線文が巡る。43 は頸部から胴部付近に刺突連点が巡りその下部に沈線文を施し、沈線間には縄文が巡る。44 は 43 と同様に頸部下に刺突連点が巡り、その下部に沈線文が施される。23、41 は子口縁部の特徴などから三万田式、24、28、34、35、38、39 は鳥井原式の土器とみられる。このほか、33 は三万田～鳥井原式頃と考えられ、37 は鳥井原式～三万田式頃の時期とみられる。また、43・44 は、文様の特徴から太郎迫式の時期とみられる。

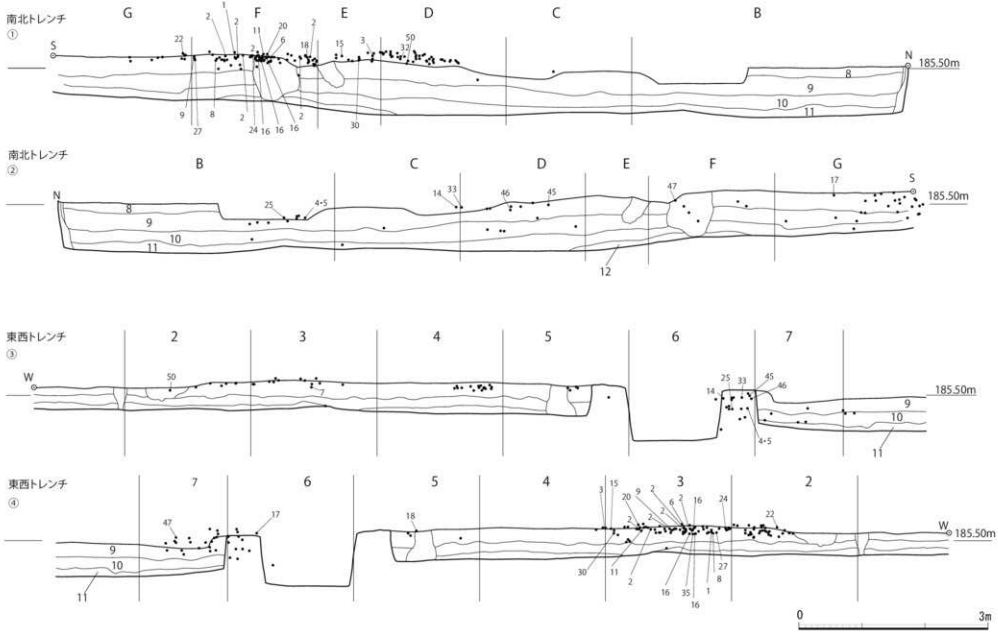
45・46 は浅鉢である。45 は口縁部が垂直に立ち上がり、口縁部外面に沈線が巡る。底部外面に黒斑が残る。口縁部の特徴から鳥井原式のものと考えられる。46 は口縁部が大きく外側に広がり、頸部から口縁部下に沈線が巡る。

47 は、脚付浅鉢の脚部とみられる。上げ底で上部は空洞になっている。鳥井原式の時期か。

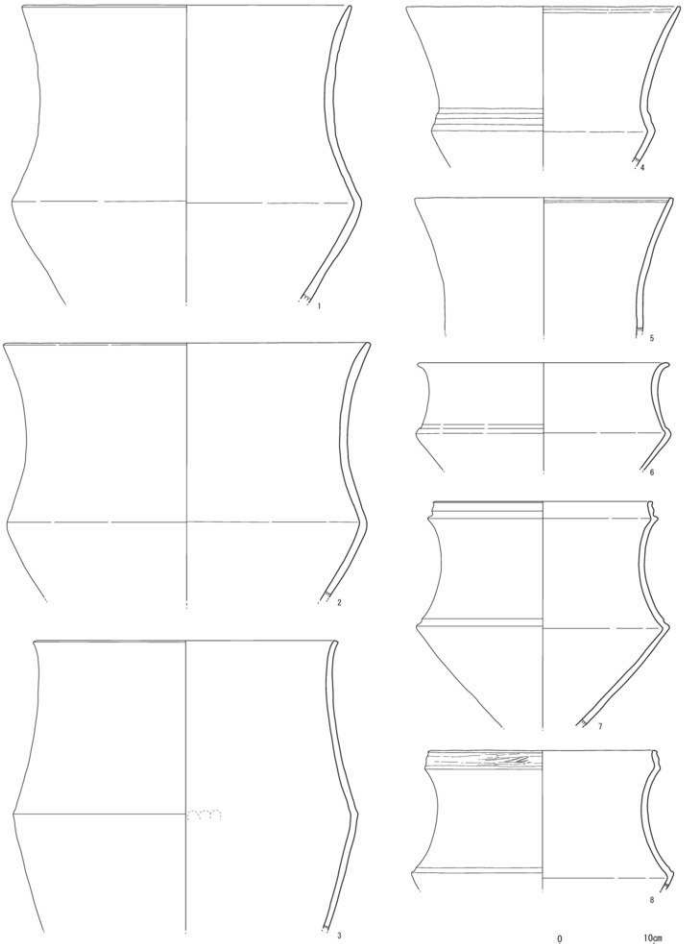
48 は注口土器で中央付近に穿孔があり、注口と胴部の接合部とみられる。

石器・土製品

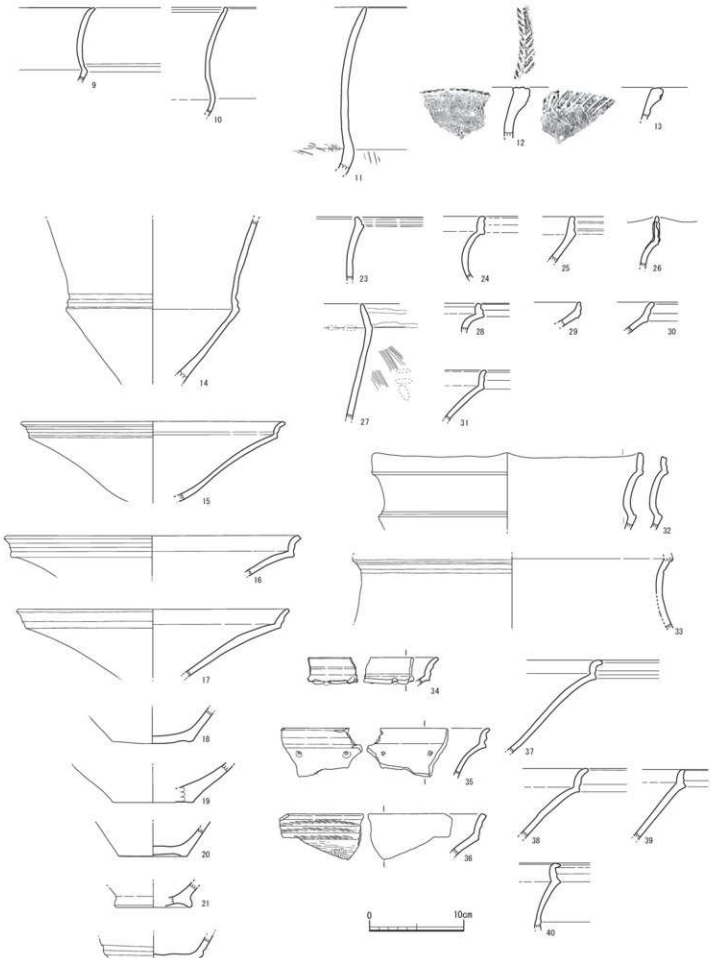
縄文土器と同様に全て掲載することが出来ないが、石器は全体で約 460 点出土しており、そのうち、黒曜石製の石器が約 270 点出土している。黒曜石は、約８割（218 点）が姫島産のもので、残りの約２割（47 点）



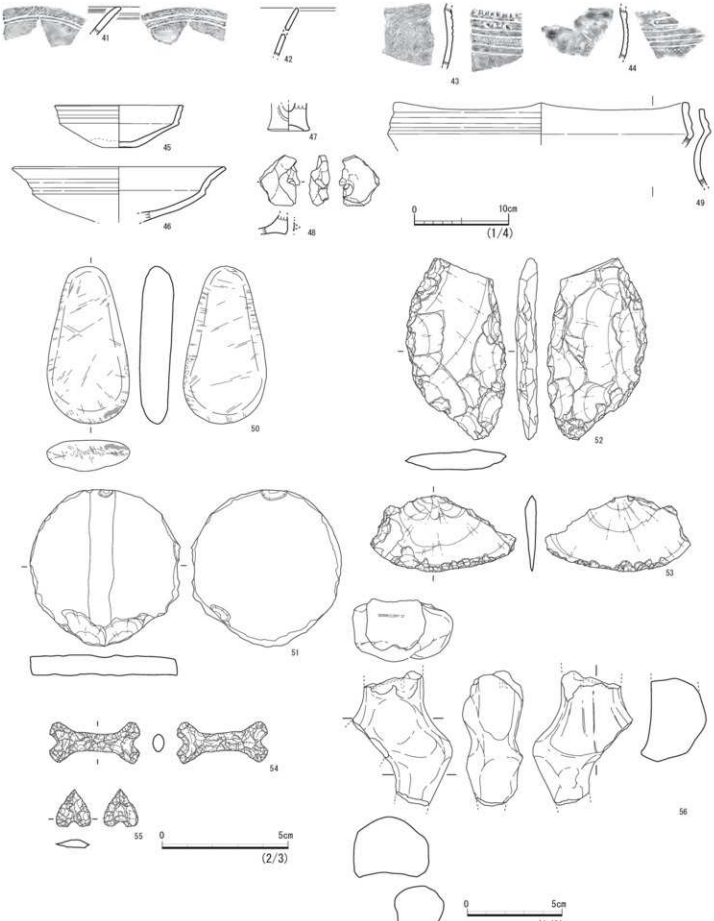
第８図　出土遺物土層位置図　(1/60)



第９図　出土遺物実測図１　(1/4)



第 10 図　出土遺物実測図 2　(1/4)



第 11 図　出土遺物実測図３　（41 ～ 48：1/4、49 ～ 52・55：1/2、53・54：2/3）

は腰岳産などとみられる。また、少量ではあるが上野川源流域で採取された粒子を含む荒い黒曜石を利用したとみられる剥片などの石器が約5点[註]出土している。以下、掲載遺物について説明する。

50は安山岩製の磨製石斧である。51は花崗岩とみられる厚さ2cm程の円盤状石製品で中央に幅約1.5cmの浅い溝が1条通っている。52は安山岩製の打製石斧である。53は泥岩製とみられる削器である。54は姫島産黒曜石製の異形石器である。55は姫島産黒曜石の石鏃である。

56は土偶である。上半部、左脚、右脚下方を欠損している。上半部の一部に乳房のような突起と腹部にふくらみ、背中の反りなどが表現されていることから妊婦を象ったものと考えられる。また、全体にナデが施されており、丁寧なつくりになっている。このほか、上部の欠損断面に直径1mm程度、深さ3mm～5mmの小穴が2力所みられる。この小穴については、土偶作成の際の木芯痕の可能性が考えられる。

註）上野川源流域とみられる黒曜石製の石器は紙面等の都合上未掲載。

Ⅳ　総括

調査で確認された遺物包含層（第9・10層）は、これまでの予備調査の結果から調査地の特定範囲に集中していると想定される（第2図）。なかでも調査地南西側（第7図グリッドF・D-2・3）を中心とした範囲に最も多く集中しており、部分的に南東側（第7図グリッドF・G-6・7、C・D-6・7）にも遺物の集中がみられる。これらの遺物は、器面の摩耗が少ないことや、石皿（第7図グリッドD-3、写真図版4）などの大型の石器が伴うことから、調査地から離れた場所からの2次堆積ではなく、原位置を大きく変えない廃棄状況を示しているものと想定される。

出土した遺物の時期については、島井原式を中心にその前後の時期である北久根式（第10図12）、太郎迫式（第11図43・44）、三万田式（第9図3、第10図10ほか）、そして一部で御領式とみられる土器（第10図26・30）が出土している。層位ごとの時期区分を明確にできなかったものの、縄文時代後期後半とされる時期以外の土器の出土がみられないことから、廃棄は一定期間に収まるものであったと想定される。また、出土した土器の器種は、深鉢や鉢を中心とした生活道具が主体で、少量ながら注口土器片や脚付浅鉢などが出土している。さらに特徴的なものとして、異形石器や円盤形石器、日田市内で4例目となる土偶が出土している。

調査地及びその隣接地では、明確な遺構を確認出来なかったことから、調査地に隣接する箇所には廃棄主体となった集落が存在したものと想定されよう。出土遺物の時期からもこの集落の存続期間は限定的なものであったと考えられる。ただし、土偶などの祭祀に関連する遺物が出土していることから、当該地域の拠点的な機能を有した集落であったと推定しておきたい。

調査地の所在する大山川流域には、下流に縄文時代後期中頃の住居が出土した手崎遺跡と中川原遺跡2次、上流には、後期前半の土坑などが出土した出口遺跡などがある。こうしたことからも、大山川流域沿いに集落が移動していた可能性も想定されよう。さらに本調査地は上野川上流の合流地点に近く、少ないながらも周辺で採取される黒曜石を利用した石器が出土していることから、当時の人々は、石材の確保が比較的容易な場所を選定して集落を営んでいたものと想定しておきたい。

【参考文献】

田中裕介 編 「手崎遺跡」『日田市高瀬遺跡群の調査2』 大分県教育委員会　1998

今田 秀樹、若杉 竜太、佐々木 由香 『中川原遺跡-2次調査の概要-』 日田市教育委員会　2010

上原翔平 『出口遺跡』日田市教育委員会　2017

第1表　出土遺物観察表（土器）1

図版番号	出土位置	種別	器種	法量（cm）				胎土	調整		焼成	色調				備考
				口径	底高	底径	器高・最大径		内面	外面		内面	Hue	外面	Hue	
第9図1	F-3	縄文	深鉢	(35.8)	(31.4)		(36.8)	A・C・D・E	縦方向の磨痕	縦方向の磨痕	良好	黒 褐 色～明褐色	7．5YR3/2～7.5YR5/8	黒 褐 色～明褐色	7.5YR3/2～7.5YR5/8	粗製
第9図2	F-3	縄文	深鉢	(30.8)	(27.1)		(37.0)	A・E	磨滅か	口縁部 条痕文 ケ・ナデ	良好	褐・黄褐	10YR5/3	黒褐	10YR3/2	

第２表　出土遺物観察表（土器）２

図版番号	出土位置	種別	器種	法量 (cm)				胎土	調整		焼成	色調				備考
				口径	器高	底径	胴部最大径		内面	外面		内面	Hue	外面	Hue	
第９図３	D-3	縄文	深鉢	(32.2)	(30.5)		(36.2)	A・B・C	研磨・ミガキ 横ナデ 指押痕	横ナデ	良好	褐～黄橙色	10YR6/4	褐～明黄	7.5YR7/4	平縁製か。内面一部ススけた
第９図４	B-6	縄文	深鉢	(28.8)	(16.7)		(24.0)	A・B・D・E・G	研磨	研磨	良好	黄 褐色 ～黒褐色	10YR5/8・10YR3/2	黒褐色	10YR3/2	縄文より下平縁製か
第９図５	B-6	縄文	深鉢	(27.4)	(14.6)			A・C・E	研磨	研磨	良好	褐～赤褐色 ～黒褐色	5YR4/3・5YR3/1	黒褐色	5YR3/1	平縁製か
第９図６	F-3	縄文	深鉢	(26.7)	(11.3)		(27.0)	A・B・G	研磨	研磨	良好	明赤褐色	5YR5/6	明赤褐色	5YR5/3	平縁製
第９図７	D-3 (ほか)	縄文	深鉢	(23.2)	23.7		(26.8)	B・C	研磨（縦・横）	研磨（横）	良好	褐～明 赤褐色	5YR5/4・5/1	褐～赤褐	5YR4/3	平縁製か
第９図８	F-3	縄文	深鉢	(23.6)	(14.6)		(27.6)	A・B・C・E・G	研磨・ナデ	研磨・ナデ	良好	黒褐色	10YR5/6	黒褐色	10YR5/6	平縁 製、口縁部 沒線周に沿線（横）施
第10図９	F-3	縄文	深鉢		(7.4)			A・C・E	研磨	研磨・横ナデ	良好	灰黄 褐色 ～黒褐色	10YR6/2・10YR3/2	黒褐色	10YR3/2	縄製、沒線
第10図10	F-7	縄文	深鉢		(11.3)			A	研磨	研磨	良好	褐色	7.5YR4/3	褐～褐色	7.5YR6/3	縄製、口縁外部に沒線文
第10図11	F-3	縄文	深鉢		(17.6)			A・B・C	研磨・指圧痕	研磨	良好	褐～黄橙	10YR6/3	明灰黄	2.5Y4/2	縄製か、内面沒線
第10図12	D-7	縄文	深鉢		(5.1)			A・B・G	ナデ	ナデ・指ぬき 出し痕跡	良好	黒褐色	10YR3/1	褐～黒褐色	10YR5/3	口縁に山形文様
第10図13	D-7	縄文	深鉢		(3.3)			G	ナデ	ナデ	良好	褐～黄褐	10YR4/3	明黄褐	10YR6/2	縄製
第10図14	C-6、一括	縄文	鉢		(17.1)			A・C	研磨	研磨	良好	黒褐色	10YR5/2	明黄褐	10YR6/6	平縁製か。（外）縄部に沒線
第10図15	E-3、一括	縄文	鉢	(28.0)	(8.4)			A	研磨	研磨・ナデ	良好	黒	7.5YR2/1	黒	10YR2/1	縄製か。口縁部に沒線
第10図16	F-3	縄文	鉢	(31.4)	(4.2)			A・C・E	横ナデ後 研磨	横ナデ後研磨	良好	褐～黄褐	10YR5/3	灰黄褐	10YR5/2	口縁部に沒線
第10図17	G-6	縄文	鉢	(28.9)	(7.1)			A・C	研磨	研磨・ナデ	良好	灰黄褐	10YR4/2	黒褐	10YR3/1	縄製、口縁に沒線
第10図18	F-5	縄文	鉢		(3.7)	8.5)		A・B・E	工具ナデ	ナデ・ナデ後 研磨	良好	褐～黄橙色	10YR5/3	褐～明黄褐	10YR6/4	平縁製、底部
第10図19	J トレンチ南	縄文	鉢		(3.7)	6.5)		A・B・D・E	ナデ	工具ナデ	良好	灰褐色	7.5YR6/2	褐～黄 色 ～褐色	7.5YR6/4 2.5YR6/6	底部、粗製、縄部に点点状
第10図20	F-3	縄文	鉢		(3.5)	(7.3)		A・B・G	研磨	研磨	良好	黒褐色	7.5YR3/1	褐～明色	7.5YR6/4	底部、上げ底
第10図21	I トレンチ	縄文	鉢		(2.6)	(7.2)		A・B・E	ナデ	ナデ	良好	褐～明 色～ 黒褐	7.5YR5/3	褐～赤褐色	5YR5/3	粗製、底部上げ底
第10図22	G-2	縄文	鉢		(3.6)	6.0)		B・E・G	工具ナデ	工具ナデ	良好	灰黄褐色	10YR4/2	褐～黄褐色	10YR5/4	平縁製、底部 円錐穴、あめてる
第10図23	F-6	縄文	鉢		(6.6)			A・B・C・E・G	研磨	研磨	良好	明灰黄	2.5Y5/2	褐～黄褐色	10YR7/3	平縁製、口縁部に沒線 ・条
第10図24	F-3	縄文	鉢		(6.6)			B・C	研磨	研磨・横ナデ 横研磨	良好	黒 褐 色 ～赤褐色	7.5YR3/1・2.5YR6/6	黒褐色	7.5YR5/1	縄製、口縁部、円筒
第10図25	B-6	縄文	鉢		(4.8)			A・E・G	横方向の研磨	横方向の研磨	良好	褐色	10YR5/1	黒褐色	10YR5/2	縄製
第10図26	F-2,3	縄文	鉢		(5.3)			A	研磨	研磨・ナデ	良好	灰黄褐	10YR4/2	褐～黄褐	10YR7/3	口縁、縄製、沒線上条
第10図27	F-3	縄文	鉢		(12.2)			A・C・G	研磨・指圧	研磨・指圧痕	良好	褐～明 黄褐色	10YR6/3	褐～黄褐	10YR5/1	平縁製、口縁部沒線文様、縄
第10図28	F-3	縄文	鉢		(2.8)			A・B・C	研磨か	研磨か	中 ～ 不良	黒褐	2.5YR3/2	黒褐	2.5YR3/2	口縁部、円筒、条
第10図29	G-2	縄文	鉢		(2.5)			A・B・C・D・E	ナデ	研磨	良好	淡黄	2.5Y7/3	明灰黄	2.5Y5/2	口縁部
第10図30	E-3	縄文	鉢		(3.2)			A・B・C	一部 研 磨・ナデ	研磨・横ナデ	良好	黒 褐 色 ～褐～黒褐色	7.5YR3/1 ～10YR5/4	黒褐色	7.5YR3/2	口縁、円筒沒線文
第10図31	F-3	縄文	鉢		(5.3)			A・C	研磨	研磨	良好	黒褐	10YR3/2	黒・褐～黒褐	10YR3/2・10YR4/3	縄製、口縁部沒線
第10図32	D-5	縄文	鉢	(27.0)	(8.0)			A・B・C	研磨・工具 ナデ	研磨・ナデ・指圧痕	良好	灰黄褐	10YR5/2	灰黄褐	10YR6/2	縄製か。口縁部に円筒・刺突文
第10図33	C-6-1、I トレンチ拡張	縄文	鉢		(7.5)			A・B・C	研磨	研磨	良好	褐～黒褐色	10YR6/4	明褐色	10YR5/3	縄製、円筒内に沒線文様、縄
第10図34	F-3	縄文	鉢		(2.8)			A・B・C・E	研磨	研磨	良好	黒褐色～黒	10YR5/4・10YR2/1	褐～黄褐色	10YR5/4・10YR2/1	口縁部、縄製、橋 橋状有
第10図35	F-3	縄文	鉢		(5.0)			A・C・E	研磨	研磨	良好	灰黄褐	10YR5/2	褐灰	10YR4/1	口縁部、縄製、橋橋状有
第10図36	G-7	縄文	鉢		(4.9)			B・C・E・G	研磨	研磨	良好	黒	10YR2/1	黒褐	10YR5/1	口縁、円筒内に縄 沒文が入る
第10図37	F-3	縄文	鉢		(9.6)			A・B・C・E	研磨	研磨・横ナデ	良好	褐～黄褐色 ～黒褐色	10YR5/3・10YR2/2	褐～黒褐色	10YR5/3	平縁製か。口縁部に円筒
第10図38	F-3	縄文	鉢		(7.2)			A・C	研磨	研磨・ナデ	良好	黒褐	2.5Y3/2	黒褐	10YR5/2	
第10図39	E-4	縄文	鉢		(7.4)			A・C	研磨	研磨	良好	灰褐～黒褐	7.5YR4/2・7.5YR3/1	灰 褐 褐 ～黒褐色	10YR5/2・10YR3/2	縄製、口縁部沒線文円筒、条内部沒線
第10図40	E-4	縄文	鉢		(6.6)			A・B・C	研磨	研磨	良好	褐～暗	7.5YR5/3	明褐	7.5YR4/2	縄製か。口縁部円筒・条
第11図41	東西トレンチ、E-2	縄文	鉢		(2.6)			A・C	研磨	研磨・ナデ	良好	黒褐色	7.5YR3/2	黒褐色	7.5YR3/2	口縁内外に沒線と縄製か
第11図42	E-2	縄文	鉢		(5.0)			A・C	研磨	研磨・ナデ	良好	黒褐色	10YR5/6	明褐色	10YR5/3	口縁部、縄製か
第11図43	C-7	縄文	鉢		(6.5)			B・D・E・G	研磨	研磨	良好	褐～黒褐	10YR5/4	明黄褐	10YR6/6	断面凹凸、沒線部
第11図44	東西トレンチ	縄文	鉢		(5.5)			G	ナデ	研磨	良好	灰黄褐	2.5Y4/2	黒褐	2.5Y5/1	断面凹凸、沒線
第11図45	D-6	縄文	浅鉢	13.6	4.5	3.5		A・C・G	研磨	研磨	良好	褐	7.5YR4/3	褐	7.5YR4/6	縄製、沒線、外底部
第11図46	D-6-3	縄文	浅鉢	(22.0)	(5.8)			A・C・E	横ナデ後 研磨	横ナデ後研磨	良好	褐～黄褐～黒褐	10YR6/3・10YR3/2	褐～黒褐～黒褐	10YR6/3・10YR3/2	縄製か
第11図47	F-7	縄文	壷形底鉢		(2.9)	(8.4)		A・C	研磨	研磨	良好	黒褐色	10YR3/2	黒褐色	10YR3/2	縄部
第11図48	D-6	縄文	注口?		(5.3)			A・B・C・D・E	ナデ	ナデ・指圧痕	良好	褐色	7.5YR4/6	明褐色	7.5YR5/6	注口部か。穿孔あり
第11図49	予備調査 1トレンチ拡張	縄文	鉢	(31.2)	(8.4)			B・E・G	横ナデ	横ナデ	良好	石灰・褐色	7.5YR5/4	褐色	7.5YR4/3	底部に縄

法量の単位はcm。（）書きは、残存と復元を表す。胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　H砂粒

第３表　出土遺物観察表（石器・土製品）

図版番号	出土位置	種別	器種	法量 (cm)			重さ (g)	石材	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
第11図50	C-5	石器	磨製石斧	8.3	4.4	1.8	88.1	安山岩	
第11図51	D-2-1	石器	円盤状石製品	8.3	8.0	1.1	116.5	花崗岩か	中央部に溝上の窪み、端部に敲打痕
第11図52	E-3	石器	打製石斧	9.6	5.3	1.1	60.9	安山岩	
第11図53	G-7	石器	剥片	4.0	7.7	0.55	19.8	泥灰岩	
第11図54	E-2	石器	異形石器	1.6	3.6	0.45	2.0	姫島産黒曜石	
第11図55	E-2	石器	石鏃	1.5	1.35	0.3	0.4	姫島産黒曜石	
第11図56	D-3	土製品	土偶	(7.2)	(5.3)	3.4	81.1	—	上部、左脚、右脚下方欠損。上部欠損部分に木芯痕か（芯か所深さ５mm程）
写真図版４	D-3	石器	石錘	38.6	25.1	8.7	—	安山岩	

発掘状況（東から）

発掘状況（西から）

発掘状況（南から）

発掘状況（北から）

グリッドC - 7 遺物出土状況（西から）

グリッドD - 3 遺物出土状況（北から）

グリッドD - 4 遺物出土状況（北から）

グリッドD - 5 遺物出土状況（北から）

写真図版 2

グリッドD - 7 遺物出土状況（東から）

グリッドF - 3 遺物出土状況（西から）

グリッドF - 5 遺物出土状況（南から）

南北トレンチ2西壁土層断面（東から）

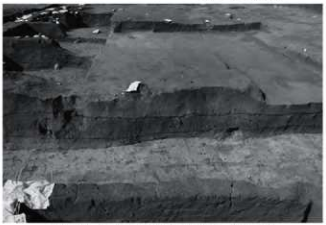
東西トレンチ西側北壁土層断面 1（南から）

東西トレンチ西側北壁土層断面 2（南から）

東西トレンチ東側北壁土層断面 1（南東から）

南北トレンチ 1 西壁土層断面 1（東から）

南北トレンチ１西壁土層断面２（東から）



南北トレンチ１西壁土層断面３（東から）

南北トレンチ１西壁土層断面（北から）

南北トレンチ１西壁土層断面（南から）

9 - 4

9 - 8

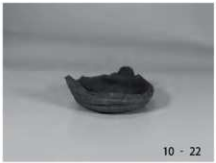
9 - 7

10 - 14

写真図版 4

10 - 12

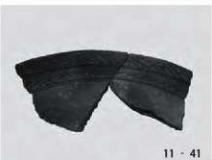
10 - 13


10 - 22

10 - 26

10 - 32

10 - 36


11 - 41

11 - 44

11 - 45

11 - 56

11 - 56

11 - 56

11 - 54

D-3 グリッド出土石皿

報告書抄録

ふりがな	かまでいせき
書名	鎌手遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第144集
編著者名	上原　翔平
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-8601　日田市田島２丁目６番１号　（電話：0973-24-7171、FAX：0973-24-7024）
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島２丁目６番１号
発行年月日	2024年３月29日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鎌手遺跡	大分県日田市 西大山	44204-6	204302	33°13′43″	130°58′55″	210221～ 210418	224㎡	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鎌手遺跡	包蔵地	縄文	遺物包含層	縄文土器、石器、土偶、異形石器	

要約	鎌手遺跡は、日田盆地の南に広がる山間部、大山川西岸の河岸段丘上の標高約185ｍに位置する。今回の調査では、調査地全体で縄文時代後期後半頃の遺物包含層を確認した。この遺物包含層は、北東に向かって緩やかに傾斜し、一部で遺物が集中して出土する箇所が確認されたものの、遺構は確認されなかった。出土遺物については、摩滅等がみられないことから、周辺の集落などから土器などが廃棄されたものと考えられる。また、出土遺物の時期は縄文時代後期後半に限られている。

鎌手遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第144集

2024年３月29日

編集　日田市教育庁　文化財保護課

877-8601　大分県日田市田島２丁目６番１号

発行　日田市教育委員会

877-8601　大分県日田市田島２丁目６番１号

印刷　日田時報紙器印刷株式会社

877-0086　大分県日田市二串町345-3

日田市